

# 令和4年第3回庄原市議会定例会

## 一般質問通告者 及び 質問事項

6月24日・6月27日・6月28日

### 質問順位

- |     |   |   |   |    |     |   |   |   |   |   |
|-----|---|---|---|----|-----|---|---|---|---|---|
| 1.  | 林 | 高 | 正 | 2. | 徳   | 永 | 泰 | 臣 |   |   |
| 3.  | 國 | 利 | 知 | 史  | 4.  | 前 | 田 | 智 | 永 |   |
| 5.  | 横 | 路 | 政 | 之  | 6.  | 宇 | 江 | 田 | 豊 | 彦 |
| 7.  | 坪 | 田 | 朋 | 人  | 8.  | 藤 | 木 | 百 | 合 | 子 |
| 9.  | 谷 | 口 | 隆 | 明  | 10. | 政 | 野 |   | 太 |   |
| 11. | 赤 | 木 | 忠 | 徳  | 12. | 松 | 本 | み | の | り |
| 13. | 吉 | 川 | 遂 | 也  | 14. | 福 | 山 | 権 | 二 |   |

庄原市議会

# 令和4年6月定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	林 高正	ラ・フォーレ庄原の現状について	1
		JR芸備線の将来について	
2	徳永 泰臣	ラ・フォーレ庄原の現状と今後の方針について	2
		JR芸備線の利用促進について	3
		市役所本庁舎前駐車場について	4
3	國利 知史	本市の「食」を次世代に残すための取り組みについて	5
		ラ・フォーレ庄原の現状と課題、今後について	7
		七塚原高原の活用について	8
4	前田 智永	本市における防災の取り組みについて	9
		本市の小中学校の校則見直しの動向について	10
5	横路 政之	物価高騰等に対する地方創生臨時交付金の取り扱いについて	11
6	宇江田 豊彦	会計年度任用職員等の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みについて	13
7	坪田 朋人	本市の人口減少対策の取り組みについて	16
8	藤木 百合子	子育て支援について	17
		空き家対策について	18
9	谷口 隆明	深刻な物価高騰から暮らしと営業を守る取り組みの強化を	19
		広島県水道企業団設立について	20
		国の天然記念物雄橋と帝釈峡の保存・活用の方向性などについて	21
10	政野 太	本市の0歳から18歳までの支援策について	22
		本市の交流人口増に向けた取り組みについて	24
		本市の林業施策について	25
11	赤木 忠徳	庄原市の県立高校の存続について	26
		JR芸備線利用促進策の現状と今後の方針について	27
		なみか、ほろかカードの利用促進について	28
12	松本 みのり	人口減少対策とこれからのまちづくりの考えについて	29
		生活困窮世帯を支える体制について	30
13	吉川 遂也	東城地域Ma a S実証実験の成果と今後の取り組みについて	31
		比婆牛振興施策について	
14	福山 権二	木質バイオマス利活用プラント整備補助事業の総括について	33

## 一般質問日程

6月24日（金） 林高正・徳永泰臣・國利知史・前田智永

6月27日（月） 横路政之・宇江田豊彦・坪田朋人・藤木百合子・谷口隆明

6月28日（火） 政野太・赤木忠徳・松本みのり・吉川遂也・福山権二

順位	1	質問者	林 高正
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. ラ・フォーレ庄原の現状について	<p>4月1日にリニューアルオープンした「ラ・フォーレ庄原」であるが、市民の皆さんからは、オープンへの期待が大きかっただけに、殆ど何も変わっていないことに落胆したという意見を聞いている。</p> <p>指定管理者である「サンヒルズ庄原」が経営しているが、株主であり、施設の所有者である庄原市は、どのような位置づけとなっているか伺う。</p>		市長
2. JR芸備線の将来について	<p>令和4年5月11日の検討会議において、JR西日本は、「前提を置かず、地域公共交通の姿について速やかに議論を開始したい」と、沿線自治体に求めているが、広島県知事は、「存続を含む議論には、応じられない」としており、木山市長も議論に反対の意向を示している。</p> <p>一方で、広島市の松井市長は、路線バスの上り下り分離方式の検討と合わせて、市内を通る鉄道への導入も研究しており、公共交通を守るには国や県、交通事業者も一緒になって考える必要があると訴えている。</p> <p>改めて、JR芸備線の将来について、庄原市の考えを伺う。</p>		市長

順位	2	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. ラ・フォーレ庄原の現状と今後の方針について	<p>ラ・フォーレ庄原は、昨年11月に日本郵政株式会社から取得し、緊急修繕を経て本年4月にオープンし、約2か月が経過した。</p> <p>ラ・フォーレ庄原は、宿泊機能を有した集いの場及びコンベンションの開催の場の提供により、観光振興及び交流促進を図り、並びにレクリエーション活動及び憩いの場の提供により健康づくりを増進し、住民福祉の向上を図るための交流宿泊施設であるが、施設整備については、今後も計画的に取り組んでいく必要があると考える。</p> <p>ラ・フォーレ庄原の施設整備の現状と今後の方向性について伺う。</p> <p>(1) ラ・フォーレ庄原の施設整備に関する現在の状況について伺う。</p> <p>(2) ラ・フォーレ庄原の施設に関する課題について伺う。</p> <p>(3) ラ・フォーレ庄原の今後の方向性について伺う。</p>		市長

順位	2	質問者	徳永 泰臣	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
2. JR芸備線の 利用促進につ いて	<p>JR芸備線については、昨年、JR西日本と関係自治体とで検討会議を開催し、今後の利用促進策について検討が重ねられている。</p> <p>昨年12月の一般質問において、市長の存続に向けた力強い答弁もあり、沿線自治体との連携も含め、各種の利用促進に向けた取り組みも進められている。</p> <p>しかしながら、今年度に入り、JR側の提案があり、存続そのものがさらに危うくなっている印象を持っているところである。</p> <p>改めて、本市としての存続と利用促進についての見解を伺う。</p> <p>(1) JR芸備線の利用促進にかかる現在の取り組み状況について伺う。</p> <p>(2) JR芸備線の利用促進を進めるためには、主に通学に定期利用している高校生の利用を図る必要があると考える。</p> <p>高校生が利用しやすいダイヤ改正の要望も必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>(3) 今年度における、JR芸備線・木次線の連携による利用促進事業について伺う。</p> <p>(4) JR芸備線の利用促進について、今後の進め方について伺う。</p>			市長

順位	2	質問者	徳永 泰臣	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
3. 市役所本庁舎前駐車場について	<p>昨年12月、市役所本庁舎駐車場について質問を行ったが、答弁では、実態を把握しながら対応を検討するとのことであった。</p> <p>現在も駐車場については、『駐車場に入りにくい』『駐車スペースが狭く駐車しにくい』という声を聞いている。</p> <p>やはり、高齢者ドライバーの割合が増えている状況を考えると、駐車しやすい環境を整えることが必要と考える。</p> <p>庁舎近くの高齢者・妊婦優先の駐車スペースは7区画と少なく、一般の駐車場についても狭い状況であること、一方で、駐車場全体が限られたスペースであることを考慮すると、全体の台数は減少しても、1台ずつの広さを確保することを検討すべきと考えるが、見解を伺う。</p>			市長

順位	3	質問者	國利 知史	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
<p>1. 本市の「食」を次世代に残すための取り組みについて</p>	<p>本市では、その恵まれた環境から作られた、美味しい農産物を原材料に、たくさんの加工品も開発されている。</p> <p>その中には古くから、地域や家庭に代々伝わる漬物や、最近では、チーズやビール、ジビエ、唐辛子など、今までには無かった本市の特色を活かした加工品も多数開発され、評判を呼んでいる。</p> <p>これらの産品を守り、次世代に引き継いでいく必要があると考えるが次の通り市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 漬物の製造については、これまで保健所への届け出制であったものが、食品衛生法の改正により、許可制となった。</p> <p>これにより、許可を取るための施設整備や修繕などに経費がかかり、漬物製造をやめる生産者が増え、本市の伝統的な食品である漬物の生産量が縮小することが懸念されるが見解を伺う。</p>		<p>市長</p>	

順位	3	質問者	國利 知史	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 本市の「食」 を次世代に残 すための取り 組みについて	(2) 近年、全国的に猪や鹿などによる農業被害が問題となっており、本市においても例外ではなくその被害は深刻である。 最近では、駆除した鳥獣を使用したジビエ料理の人気の高まっているが、本市においても美味しい野生鳥獣のジビエ商品も開発され、売り出されている。 今後はさらに強化し次世代に繋げていくべきと感じるが、ジビエに関する本市の今後の販売戦略や計画などについて伺う。	市長				
	(3) 本市が力を入れている比婆牛だが、溶けるような甘みのあるサシの入った肉は非常に美味しく、好評である。 この歴史ある比婆牛を後世に残していくことは、本市の畜産業にとって非常に重要であると感じている。 比婆牛を次世代に引き継いでいくための今後の生産体制や販売計画について伺う。					



順位	3	質問者	國利 知史	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. ラ・フォーレ庄原の現状と課題、今後について	<p>「桜花の郷 ラ・フォーレ庄原」が4月1日にリニューアルオープンした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中ではあるが、2年ぶりに行動規制も無いゴールデンウィークや、6月からは、パッケージツアー限定ではあるが、観光目的の海外からの入国者も増えるなど、少しずつではあるがウィズコロナに向けた動きが進んでおり、人の流れも戻りつつあることに期待している。</p> <p>このような、状況の中でのラ・フォーレ庄原について伺う。</p> <p>(1) 屋外施設のテニスコート4面、フットサルコート2面のスポーツ施設の利用状況について伺う。</p> <hr/> <p>(2) 施設周辺環境や庭園などの手入れについて、行き届いていない印象を受ける。</p> <p>そこで、これらの整備を住民が行うように、住民ボランティアを募集するなどして、住民参加型の施設にすればどうか提案したいが見解を伺う。</p> <hr/> <p>(3) 本市は市域の84%を森林が占めるほど、森林は庄原の資源であり、ラ・フォーレ庄原も、本市の強みを活かした集客を行うべきと考える。</p> <p>敷地内にある広大な山林などの遊休地を活用した集客についての計画はあるか伺う。</p>		市長	

順位	3	質問者	國利 知史
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 七塚原高原の 活用について	<p>昨年の6月定例会で質問したが、七塚原高原は、庄原を代表する場所であり、重要な観光スポットであることは共通の認識であると理解しており、今後の利活用等について、広島県への働きかけを継続するとの答弁であった。</p> <p>築120年を迎えた「七塚原記念館」についても、広島県への要望を行っているということであるが、現在、外壁の破損が昨年よりも大きくなり、建物の内部が見え、雨風が入り込む状況となっている。</p> <p>この施設が歴史的な建造物として価値があることは、これまでも答弁いただいているところであり、保存することは、本市の観光にとって非常に重要と考えるが、これまでの取り組みや今後の対応について見解を伺う。</p>		市長

順位	4	質問者	前田 智永
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 本市における防災の取り組みについて	<p>近年、頻発している豪雨災害によって、全国的に防災力向上の意識が高まっている。</p> <p>本市においても例外なく毎年のように災害が起きており、時期が近付いてくると不安な声を耳にする。</p> <p>阪神淡路大震災の教訓から、2003年に日本防災士機構により防災士制度が創設された。</p> <p>多くの自治体で防災や減災の知識や技能を身につけた防災士の養成が地域防災力向上に有効であると認識され、県市町、団体組織の尽力で本年5月末までの防災士認証登録者数は231,848名とされている。</p> <p>本市における防災の取り組みとして、市内の防災士の人数を把握するとともに、養成講座を市内や近隣市町と連携して開催するなどし、市民の防災への意識向上を図るとともに、資格取得を促進することが有効と考えるが、市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	4	質問者	前田 智永
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 本市の小中学校の校則見直しの動向について	<p>近年、学校を取り巻く社会環境や児童生徒の状況の変化に応じて校則や生徒指導方法をまとめた生徒指導提要を見直すよう、子どもたち、保護者、団体等から声が上がっている。</p> <p>子どもたちが学校生活を楽しく豊かに過ごすために、「必要なルールなのか。」という声は、マスコミ報道でも多く取り上げられ、特設ページを設ける等、社会問題化している。</p> <p>校則制定の権限は、学校運営の責任者である校長にあることから、学校独自に見直しをする動きもある。</p> <p>文部科学省は、昨年6月から校則の見直し等に関して生徒指導提要の改訂に関する協力者会議を開催し、「生徒指導提要」の改訂試案が公開された。</p> <p>本年、夏ごろには、確定版が公開される予定と聞いているが、その改訂試案には、「校則の内容は、状況の変化に伴い絶えず積極的に見直さなければならない。見直しの際は、児童生徒の話し合いやPTAアンケートを行う。」などの提案も盛り込まれている。</p> <p>本市の小中学校の校則については、「毎年見直しをしている」「制服の変更をした学校もある」等伺っているが、現在の各学校の動向や子どもたちや保護者の声がどのように反映されているのか教育長の見解を伺う。</p>		教育長

順位	5	質問者	横路 政之	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 物価高騰等に対する地方創生臨時交付金の取り扱いについて	<p>(1) 新型コロナウイルス感染症の長期化、そして本年2月末以降のロシアのウクライナ侵攻等の影響により、原材料価格が値上がりしている。</p> <p>4月には、政府が輸入小麦の売り渡し価格を17.3%値上げしたところでもあり、食材費の値上がりが一層懸念される。</p> <p>そこで、本市における学校給食の食材調達の現状と、食材費と予算のバランス等を含めた、今後の見通しについて伺う。</p> <hr/> <p>(2) 本年4月に内閣府より発出された文書「令和4年度における新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の取り扱いについて」では、「物価高騰に伴う学校給食等に関する負担軽減」という項目が追加されている。</p> <p>物価高騰による給食費値上げを抑えるため、地方創生臨時交付金を活用できるものであり、本市においても活用すべきと考えるが、見解を伺う。</p>	市長 教育長				

順位	5	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 物価高騰等に対する地方創生臨時交付金の取り扱いについて	<p>(3) 今般の食材費の高騰は、輸入食材に頼る状況に起因するものと判断できる。</p> <p>地域・地元産の食材を採用することによって、供給の安定化が図れるとともに、地域農業の振興や、食育の観点からも有効と考えるが、見解を伺う。</p> <hr/> <p>(4) 今回の臨時交付金の取り扱いについては、学校給食等の負担軽減の他、生活支援面では、住民税非課税世帯などに対する臨時特別給付金の対象拡大や給付額の上乗せ、子育て世帯生活支援特別給付金の対象拡大や給付額上乗せ、及び水道料金をはじめとする公共料金の負担軽減、産業支援では、バス、タクシーなど地方公共交通の経営支援、トラックなど地域の物流の維持に向けた経営支援、そして水道料金をはじめとする公共料金補助など、多くの交付金活用事業が紹介されている。</p> <p>本市としての臨時交付金による対応について伺う。</p> <hr/> <p>(5) 物価高騰の影響は、市民全般に広く及んでおり、今後も拡大することが予測される。</p> <p>的確な施策を実施するためにも、早急に情報を収集する仕組みを構築すべきと考えるが見解を伺う。</p>		市長 教育長	

順位	6	質問者	宇江田 豊彦	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 会計年度任用 職員等の雇用 安定・処遇改善 に向けた取り 組みについて	<p>2020年から施行された会計年度任用職員制度は一定の成果はあったものの、法の趣旨である同一労働・同一賃金には遠く及ばない現状がある。</p> <p>とりわけ、短時間勤務の会計年度任用職員については、地方自治法上各種手当のうち「期末手当」のみしか支給できず、全国的に当事者などから特に勤勉手当について支給を求める声が多数出されている。</p> <p>また、フルタイムの会計年度任用職員については法律上勤勉手当を支給することは可能であるが、総務省からの指導によりほとんどの自治体で支給がされておらず、こちらも勤勉手当の支給を求める声が挙げられている。</p> <p>なお、国の非常勤職員においては、すでに「勤勉手当」が支給されていることから均衡が図られているとは言えない状況にある。</p> <p>2023年通常国会に地方自治法等改正をめぐり、国会・省庁・地方三団体などへの要請に取り組み、会計年度任用職員等の雇用安定・処遇改善を進めるべきである。</p> <p>本市においても、多くの会計年度任用職員の雇用をしており、処遇改善を進め、貴重な人材を確保することは、安定した公共サービスの提供に必ずや資するものと考えるところである。よって、次の通り具体的に伺う。</p>		市長	

順位	6	質問者	宇江田 豊彦	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 会計年度任用職員等の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みについて	(1) 勤勉手当支給について、国の非常勤職員との均衡を踏まえ、全ての会計年度任用職員に勤勉手当を支給できるよう、地方自治法第 203 条の 2、第 204 条の改正について市長会を通じて国に要請すべきと考えるが、見解を伺う。		市長	
	(2) 労働法の改正を踏まえ、人材確保及び雇用安定の観点から、引き続き公務における給付体系のあり方、任用のあり方の検討を行うよう、市長会を通じて要請すべきと思うが見解を伺う。			
	(3) 給料の水準について、手当支給、休暇制度については、常勤職員との均衡を図ることが基本であるが、実態はどのようなになっているのか伺う。			
	(4) 本来、常勤職員を充てるべき恒常的業務に会計年度任用職員を就けているような実態はないのか伺う。また、均衡の合理性はあるのか伺う。			
	(5) 時間外勤務の実態はどのようなになっているのか。また、時間外勤務を命令した場合、時間外勤務手当相当分を支給しているのか伺う。			



順位	6	質問者	宇江田 豊彦	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 会計年度任用職員等の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みについて	<p>(6) 会計年度任用職員の中でも、育児・介護休業の有給化を必要とする人も多くあり、制度の整備が必要であろう。また、「子育て支援」を進める本市として今後の対応をどのように考えているのか伺う。</p> <hr/> <p>(7) 全ての非常勤職の把握はできているのか、職種・職域別常勤職との割合はどうなっているのか、本市における、会計年度任用職員の任用・配置状況について伺う。</p>		市長	

順位	7	質問者	坪田 朋人	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 本市の人口減少対策の取り組みについて	<p>近年、日本は少子高齢化、人口減少が大きな社会問題となっており、本市においても人口減少対策は重要な施策である。</p> <p>令和4年度施政方針では、『人口減少対策については外部からの有識者である「人口減少対策戦略プロデューサー」を交えた、市内の「人口減少対策戦略本部」による検討を踏まえ、本市の魅力を「知ってもらい」、実際に「来てもらい」、そして生活の場として「選んでもらう」ための施策について、これまでの取り組みに加え、新たな事業も含め展開する』としている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、人々の生活様式が変化し、地方への移住希望者も増加しており、各自治体にとっては、移住定住促進のチャンスであると同時に、全国で移住希望者の争奪戦になっているとも考える。本市における人口減少対策について伺う。</p> <p>(1) 本市の魅力を「知ってもらい」、実際に「来てもらい」、そして生活の場として「選んでもらう」ための施策についてそれぞれ具体的な施策、今年度どのような形で取り組もうとしているのか伺う。</p> <p>(2) 本市での取り組みについて、具体的なPR方法について伺う。</p>		市長	

順位	8	質問者	藤木 百合子	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 子育て支援について	<p>子どもを取り巻く環境は、貧困、孤独、いじめなど社会問題となっており、令和2年度の全国の児童相談所における虐待相談対応件数が過去最多となるなど厳しさを増している。</p> <p>庄原市では、子どもと子育て家庭を支援するために、地域子育て支援拠点事業を実施し、子育て家庭の育児不安や負担感の軽減を図るための相談支援や児童虐待の未然防止と早期対応のため、関係機関や市民への啓発を行うとしている。</p> <p>また、新規事業として、子ども家庭総合支援拠点事業も実施している。</p> <p>これらの子育て支援事業について、市の見解を伺う。</p> <p>(1) 本年度、板橋子育て支援センターと庄原子育て支援センターの一本化による機能強化や、家庭児童相談員の増員を通じて、より効果的な支援につなげる為の拠点を設置するとしているが、その具体的な内容を伺う。</p> <p>(2) 本市では、「地域で子どもを育て、子育て家庭を支える環境づくりを進める」としており、地域の中で子どもが育っていくことが、重要であると考えている。</p> <p>現在、希望しても地域の保育所に入れな ない状況があるが、そのことの認識を伺う。</p>		市長	

順位	8	質問者	藤木 百合子	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 空き家対策について	<p>本市では、人口減少に伴い、近年、空き家が増えていると感じている。</p> <p>空き家の一部は、移住・定住等の事業により、利活用されているものもあるが、活用されず、そのまま老朽化している家屋もある。</p> <p>これらの家屋には、倒壊寸前のものもあり、このような空き家と隣り合わせに生活をされている方は大変不安な生活を強いられている。</p> <p>空家等対策の推進に関する特別措置法（平成26年法律第127号）も制定されているが、本市において、このように老朽化し危険とされている空き家についての現状と対策をどのように考えているか伺う。</p>		市長	

順位	9	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 深刻な物価高騰から暮らしと営業を守る取り組みの強化を	<p>(1) ガソリン代、資材、光熱費、食料品、学校給食等など、物価高騰が暮らしと営業に大打撃を与えている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応地域創生臨時交付金については、本市においても様々な支援策を計画している。</p> <p>地域経済や生活福祉などへの支援として多種多様の活用事業が対象となっているが、この臨時交付金活用にかかる本市の基本的な考え方を伺う。</p>		市長
	<p>(2) 必要経費の大幅値上げの中、水田活用交付金の制度見直しは、大規模農家や農業法人などにとっては死活問題になっている。</p> <p>ロシアのウクライナ侵攻や円安を契機に、食料の自給率の向上の必要性がますます明瞭になっている。</p> <p>市として関係者の声を聞き、国に対して今年度からの制度見直しの中止を要請し、市としても独自支援する考えはないか伺う。</p>		

順位	9	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 広島県水道企業団設立について	<p>(1) 繰り返し指摘してきたが、水道は憲法で保障された生存権と公衆衛生の問題であり、本来国が責任を持つべきである。</p> <p>国・県の財政支援も含めて、各市町の水道事業を支援するのが本来の姿ではないか。</p> <p>また、広い面積を有する庄原市では、災害対応等を考えるとできるだけ自己水源を残すことも大切ではないか。</p> <p>企業団に参加しないという選択肢はないのか、改めて伺う。</p> <hr/> <p>(2) 企業団の事業計画期間は10年間となっているが、その後は水道事業の民営化につながる恐れがある。</p> <p>水の供給は民間経営の対象にすべきではないと考えるが、市長の基本的な姿勢を伺う。</p>		市長

順位	9	質問者	谷口 隆明	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
3. 国の天然記念物雄橋と帝釈峡の保存・活用の方向性などについて	<p>(1) 2007年に教育委員会が作成した「天然記念物雄橋緊急調査報告書」は、どのように活用してきたのか。</p> <p>(2) 国定公園指定から来年で60年、自然保護の観点から高木など全く手付かずになっている。直根が伸びて石灰岩の崩壊につながる恐れがあるのではないかと。</p> <p>「報告書」では雄橋に近接して大木化している植物への対策が必要としている。落石・崩落等の対策からも、現状変更申請を行い間伐等行うことはできないのか。</p> <p>(3) 報告書では下流からの雄橋の観望や上から見下ろす新しい視点も提案されている。</p> <p>県と協議し、まほろばの里の有効活用と合わせて具体化し、新たな帝釈峡散策の拠点をつくる考えはないか伺う。</p> <p>(4) 帝釈峡遺跡群発掘60周年の記念事業に、庄原市の支援のもと、地域をあげて取り組んでいる。</p> <p>縄文から弥生、古墳時代にかけて二つの国史跡を持つ市として、専門の学芸員の配置も強化し、庄原市の優れた遺跡や古墳に光を当て、学校教育や生涯学習に活用し、さらに全国へのPRを強化すべきではないか。</p>		教育長	

順位	10	質問者	政野 太	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 本市の0歳から18歳までの支援策について	<p>(1) 広島県は平成26年度から令和5年度までを計画期間とする「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」を定め、1学年1学級の高校に学校活性化地域協議会が設置され、定員を確保するための取り組みを進めている。</p> <p>県内14校のうち、本市では広島県立東城高等学校、広島県立西城紫水高等学校に協議会が設置され、市並びに教育委員会もその構成員として参画している。</p> <p>これまでは、取り組み効果もあり、県の定数基準である全校生徒80人以上の生徒数を維持されてきたが、急速な人口減少が拍車をかけ、県内3校（庄原市東城高校・府中市上下高校・広島市湯来南高校）で、令和3年度、4年度では、生徒数が80人を下回り、本年8月頃には、この3校の在り方について、広島県が結論を出すとしている。</p> <p>このことについて、市としてどの様に感じているのか、また、広島県に対してどの様な対応を求めていくのか市長の見解を伺う。</p>		市長 教育長	



順位	10	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
<p>1. 本市の0歳から18歳までの支援策について</p>	<p>(2) 本市では、乳幼児等医療費助成として一部自己負担はあるものの15歳までを対象に助成を行っている。</p> <p>広島県内において、対象年齢が18歳の市町は約3割となっており、中山間地域の市町では、約8割弱が18歳まで助成をしている。</p> <p>これまでも議員、市民からの要望もあり検討されてきた経緯があると認識しているが、市民に直接的なメリットのある制度である。</p> <p>対象年齢を18歳まで引き上げるべきと思うが市長の見解を伺う。</p>		<p>市長 教育長</p>

順位	10	質問者	政野 太	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 本市の交流人口増に向けた取り組みについて	<p>(1) 本年5月5日、東城町三坂にある広島県設置の木造公衆トイレにおいて、原因不明の火災事故により全焼した。</p> <p>本施設は、設置されて30年以上が経過していることから、広島県に対して建て替えの要望を行っていたと聞いている。</p> <p>今回の火災事故は、場合によっては人命にも関わる恐れがあった重大な事故であったと認識をしている。</p> <p>本市内には、県設置、あるいは市設置の公衆トイレが数多く点在しているが、それらの安全管理についてどの様な点検を行い、広島県への報告・要望を行っているのか市長に伺う。</p> <hr/> <p>(2) 帝釈峡は、令和5年で1923年に国の名勝として指定されてから100年、1963年に比婆道後帝釈国定公園として指定されてから60年という記念の年を迎える。</p> <p>本市の観光振興を推進する上で、大きなチャンスであると考えます。</p> <p>名勝帝釈峡指定100周年、ならびに国定公園指定60周年に向けた観光施策を検討しているのか市長の見解を伺う。</p>		市長	

順位	10	質問者	政野 太	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
3. 本市の林業施策について	<p>「森林環境譲与税」の有効活用は、市域の約84%を占める森林が有する豊富な森林資源を活用した「儲かる循環型林業」の構築、さらには公益的機能を維持するため、言わば市民の安心安全にも寄与する重要な役割を担っていると認識をしている。</p> <p>公益的機能を持続させ、林業振興の活性化につなげるため、森林環境譲与税を財源とした具体的な取り組みが必要である。</p> <p>令和元年には、庄原木の活用を研究し、森林資源の循環利用サイクルの構築、木材産業の活性化に寄与する大手建材企業と連携協定を締結している。</p> <p>市長は過去の一般質問の答弁で「協定の締結を契機に、継続的なトップ会談を重ね、具体的な計画を進める協議を行い、課題等への対応を双方で共有することを確認した。」と答弁をしているが、連携協定に基づく林業施策は、その後どのように取り組んでいるのか具体的な進捗について市長に伺う。</p>		市長	

順位	11	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原市の県立 高校の存続に ついて	<p>(1) 県立高校では、今年度の入学者数が確定し、本市では、県の定数基準である在学者80名を東城高等学校が2年連続で下回り、西城紫水高等学校においても、今年度の定数基準を下回っている状況である。</p> <p>本市として、この現状をどう受け止めているのか考えを伺う。</p> <hr/> <p>(2) 広島県内は、何校か県の定数基準を下回った高校があるが、高校存続に向けての地域の取り組みについても情報を得ているのか。</p> <p>例えば、江田島市では、「大柿高等学校魅力化コーディネーター」を配置し、市内外の中学校訪問やSNS発信などに取り組むことで、入学者が増加した例もある。</p> <p>本市においても、地域での取り組みとして、コーディネーターなどの人材配置を検討し、高校存続に向けた取り組みを進めるべきと考えるが見解を伺う。</p>		教育長

順位	11	質問者	赤木 忠徳	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
2. JR芸備線 利用促進策の 現状と今後の 方針について	<p>鉄道輸送の本来の目的は、大量輸送及び長距離輸送であるが、現在のJR芸備線の現状は新見－東城、東城－落合、落合－三次、三次－向原、向原－下深川、下深川－広島など、利用が細かく寸断されている現状である。</p> <p>JR西日本では、100円稼ぐのにいくらかかるかを示す営業係数を公表し、最も大きい東城－落合間での係数は25,416としている。運輸収入は、1年あたりで100万円、1日あたり2,740円と公表された。</p> <p>多くの人が寝ている早朝の運行や、庄原、三次、広島などの都市間交通になっていないこと、庄原から広島に行くにも三次で乗換え、しかも、陸橋を渡らなければ広島行に乗れないなどの不便さも、乗車客の減少の原因になっていると考える。</p> <p>今年5月に、JR西日本が自治体等の関係者に申し出ている提案に対して、広島県、庄原市も「廃線を含む協議には応じられない。」との意向を示しているが、JR芸備線に係る利用促進の現状と今後の方針について伺う。</p>		市長			

順位	11	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
<p>3. なみか、ほろ かカードの利 用促進につい て</p>	<p>庄原市は、市民の取得率が高い「なみか、ほろかカード」を有しており、さまざまな活用が進められている。</p> <p>このカードは、キャッシュレス決済によるポイント付与のみならず、子どもと高齢者の見守りサービス機能にも取り組んでおり、カードの利用方法は、多岐にわたって可能性を持っている。</p> <p>例えば、広島市が実施している「高齢者いきいき活動ポイント事業」のように、ボランティア活動や特定健診の受診、健康づくり・介護予防活動に対して、一定のポイントを付与し、ポイント数に応じて、奨励金を支給する事業を参考に、これらの活動ポイントをカードに付与するなども考えられる。</p> <p>このように、「なみか・ほろかのカード」は、「市民カード」としての利用方法の拡充が期待できるとともに、市民の行政参画の起爆剤になりうる可能性が大いにあると考えるが、今後の事業展開の考え方について伺う。</p>		<p>市長</p>

順位	12	質問者	松本 みのり	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 人口減少対策 とこれからの まちづくりの 考えについて	<p>(1) 庄原市の最重要課題とされる「人口減少問題」について、「人口減少対策戦略本部」を据えて取り組んでいるが、そもそも市として何を目指し、どういった数値目標を持って、対策に取り組んでいるのか伺う。</p>		市長	
<p>(2) 市では、本年度、庄原に関わってくれる人を増やそうと「庄原ファンクラブ」を発足する予定であるが、庄原のファンとなり、庄原に移住を考えた際に、出来るだけ速やかに対応することが、庄原市を選んでいただける条件となると考える。</p> <p>現在、旧市町ごとに、空き家バンクの登録件数及び、その中で、すぐに入居が可能な住宅が何軒あるのか伺う。</p>				
<p>(3) 本市では、庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画により、児童生徒数の推計に合わせて、計画を進めているが、子育て世代のUターン、Iターンのための住宅確保などに力を注ぎ、子どもを増やすことが、地域の学校を存続させ、ひいては人口減少対策に効果があるものと考えます。</p> <p>子育て世代のUターン、Iターンのための空き家対策を含めた定住対策について伺う。</p>				

順位	12	質問者	松本 みのり	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
2. 生活困窮世帯を支える体制について	<p data-bbox="531 416 1187 629">第3期庄原市地域福祉計画によると、庄原市内での生活保護相談件数は、2016年度に47件であったものが、2020年度には133件と3倍近く増えている。</p> <p data-bbox="531 651 1187 864">コロナ禍での社会状況や、著しい物価上昇の影響から、生活困窮世帯と呼ばれる家庭へのサポートはますます必要とされるものと考えられる。</p> <p data-bbox="531 887 1187 1032">庄原市として十分なサポートを行うための人員配置と体制づくりが出来ているかについて伺う。</p>	市長				



順位	13	質問者	吉川 遂也
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 東城地域Ma a S 実証実験の成果と今後の取り組みについて	(1) 令和3年11月から3か月間に渡り、東城地域において、AI技術を活用した予約制バス・予約乗合タクシーを試験運行し、利用者の利便性向上と事業者の収益性向上、運行業務の省力化がどの程度図られるかを検証するための実証実験をしたが、その成果及び今後Ma a Sをどのように活用するか伺う。		市長
	(2) Ma a Sについては、今後の本市の生活交通をより効率的に、また、より便利にするための技術の中心となる可能性があるもの と考える。 今回の実験では、インターネットを活用した予約のシステムが非常に使いづらいものとなっていたように感じるが、どのような受け止めをしているか伺う。		
2. 比婆牛振興施策について	(1) 本市においては比婆牛生産の中心地として特色ある施策を積極的に推進してきているが、今年10月6日から鹿児島で開催される「第12回全国和牛能力共進会」へ向けてどのような取り組みをしているか伺う。		市長

順位	13	質問者	吉川 遂也
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 比婆牛振興施策について	<p>(2) 和牛繁殖農家は小規模事業者を中心に高齢化が進み、さらには最近の和牛、乳牛生産における乾牧草、飼料をはじめとする生産コストが前年度比2割を超える上昇や、5月の三次子牛せり市場の販売平均価格が4月市場より13万円も下げるといった状況など、ますます廃業も視野に入れる厳しい状況となっている。</p> <p>今後の状況をどのように分析され、対策を検討しているか伺う。</p>		市長
	<p>(3) 昨年度、三次子牛せり市場における比婆牛の出荷頭数及び全体におけるその割合。また、出荷された庄原産子牛の中で、比婆牛の数とその割合。</p> <p>さらには、販売価格において比婆牛とその他の和牛ではどのような差があったか、また出荷頭数の増減はどうであったか伺う。</p>		
	<p>(4) 来年、G7サミットが広島で開催されることが決定し、先日発表された。</p> <p>G7サミットでは、是非とも比婆牛をはじめとする庄原産農産品を世界の首脳に味わっていただきたいものとする。</p> <p>積極的にPRをし、その榮譽に浴するため、今年度市長はどのような取り組みを考えているか、意気込みを伺う。</p>		

順位	14	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 木質バイオマス利活用プラント整備補助事業の総括について	<p>(1) 庄原市は、2008年4月から「木質バイオマス利活用プラント整備補助事業」を展開したが、事業は計画途中で頓挫し、事業中止となった。</p> <p>市議会では、この事業の中止を受けて、特別委員会を設置して議論を行い、総括を公表してきた。</p> <p>事業中止及び補助金返還に対して、市民から、市が国に支払った補助金返還額等について、現市長は前市長に支払いを求める請求を行うよう求めた住民訴訟が広島地裁に提訴され、長期間の審理を経て市長の敗訴判決が出され、市長は控訴した。</p> <p>控訴審に際して、裁判所に提出された控訴理由書を市民に公開するのか、見解を求める。</p> <p>(2) 住民訴訟については、第1審の判決まで長期間が経過したが、この訴訟維持に市が支出した金額の合計額を市民に公表すべきだと考えるが、その合計額及び内容について伺う。</p> <p>(3) 庄原市の「木質バイオマス利活用プラント整備補助事業」に関する市長の総括はいつの時点で市民に示すのか、その時期について伺う。</p>		市長